

共同利用・共同研究課題「アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究(3)」(jrp000293) 2024年度第1回研究会(通算第1回目)

2024年6月15日(土) 13:00-17:50

札幌学院大学3号館3階3310会議室+オンライン

第3期を迎えた本共同研究課題の1回目となる今研究会では、5件の発表と、発表に関する質疑応答・情報提供、全体討論を行った。当日のプログラムは以下のようである。

13:00-13:10 奥田統己(AA研共同研究員, 札幌学院大学) 開会, 趣旨説明

13:10-14:00 吉川佳見(AA研共同研究員, 北海道博物館)「AA研所蔵アイヌ語フィールドノートの沙流方言資料の公開に向けて:公開方法の再考(2)」

14:10-15:00 深澤美香(AA研共同研究員, 国立アイヌ民族博物館)「AA研所蔵のアイヌ語フィールドノートの整理に向けて:美幌方言調査を中心に(9)」

15:20-16:10 高橋靖以(AA研共同研究員, 北海道大学)「アイヌ語幌別方言の人称表示と使役構文について」

16:20-17:10 児島恭子(AA研共同研究員), 阿部佳恵(AA研共同研究員), 奥田統己(AA研共同研究員, 札幌学院大学)「AA研所蔵アイヌ語資料の整理の方針と現状(仮題)」

17:20-17:50 総合討論

本研究課題が第1期、第2期を経て7年目となることから、具体的な成果の公開方法に関する報告が中心となった。吉川および深澤の報告は、整理の進んだ調査記録(調査ノート、録音資料)の整理状況の報告ののち、適切な公開方法のありかたを提案・検討する内容であった。調査記録にはプライバシーに関する内容が多く含まれるが、とくに録音資料におけるそれらはどう隠すのがよいのか(クリッピングする、無音化する、ピープ音等を重ねる、ほか)という点に関して、ユーザーの立場、権利上の観点、一次資料としての観点などから意見交換がなされた。さらに、このようなプライバシーに関する内容を何らかの方法で処理する場合に、外注など第三者の協力が可能かどうかという点についても意見が交わされた。

高橋は、本研究課題が対象とするAA研所蔵資料ではない、別の資料を対象とした言語データをもとにした、人称表示と使役に関する報告をおこなった。新たな発見となりうる内容であるが、用例数が少なく、さらにエリシテーションが困難な状況の中での検証が問題となるということも付言された。一方で、これまで誤分析をしていた用例の可能性もあり、今後の地域類型論への貢献に期待を抱かせる内容であった。

児島・阿部・奥田報告は、808室所蔵の現物資料(テープ類、書籍、ノート、雑書類)の整理の現状と今後の方針に関する内容であった。一部の雑書類と蔵書に関しては今年度中に処分することを前提に整理を進めることを確認した。

以上の報告をふまえ参加メンバー全員で討論をおこなった。

(文責：山越康裕)

※当報告の内容は、報告者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.